

滋賀大学国際シンポジウム

エビデンスに基づく警察活動 - 英国における研究者と実務家の協働から -

POLICE

How can academia support the police to reduce crime?
Evidence and experience from the UK

犯罪対策は感情的な反応で過大になりがちですが、データ分析により問題の背景を見出して対策を実施し、効果検証を行うことで、合理的な対処が可能です。本講演では、英国等で成功している問題解決型警察活動と、EBPM 先進国である英国のエビデンス構築・普及の仕組み、実務家育成について紹介します。

7月3日(木) 13:00-14:30 講堂ホール

13:00-13:15 竹村学長挨拶

13:15-14:30 講師講演、質疑応答

- 対 象: 限定なし(申込不要)
- 開 催: 対面 + WEB
- 言 語: 英語(日本語解説付き)



【講師】
エイデン・サイドボトム Aiden Sidebottom
University College London
安全・犯罪科学部准教授

同大学博士課程 2013 年修了、
問題解決型警察活動の世界的権威として、英国のロンドン警視庁をはじめ各地の警察機関と連携し、科学的手法による犯罪対策の実践を指導。英国のみならず東アジアを含む各国で犯罪研究にも従事し、日本の犯罪動向についても研究実績を有する。

【解説】
鈴木 あい 福島大学 教育推進機構
「地域 x データ」実践教育推進室特任准教授

島田 貴仁 本学データサイエンス学部 教授

【同 時 開 催: 14:45~16:40】

講演後、国内研究者・実務家からの
事例発表会を開催します
(教員限定、対面のみ、要事前登録)

DS・島田教授までお問合せください(6/25㍻)
お申込先: takajin@biwako.shiga-u.ac.jp

【次回予告】国際シンポジウム犯罪の地理的分析
11月27日(木)開催決定!

【本件に関するお問い合わせ】

データサイエンス・AI イノベーション研究推進センター

ura@shiga-u.ac.jp